



発行所
一般財団法人
広島県動員学徒等犠牲者の会
事務局
広島市南区比治山本町12-2
広島県社会福祉会館内
〒732-0816 電話 (082) 252-0316
印刷所 **Taisei**

デジタルブック
“衝突の証言”
<http://www.douingakuto.com/>

本会の設立は、昭和32年（1957年）2月17日で、今年が設立から60年になります。発足の経過、設立時の目的、目標については、平成28年6月30日付けともひび124号で紹介しましたが、本号では、会の設立にご尽力された方々のご苦勞を偲び、広島県動員学徒等犠牲者の会が昭和50年に発行した『戦後30年の歩み』から温品康子さん（故人）の手記を紹介します。

創立までのあゆみ

広島市住吉町 遺族 温品康子

不幸広島県の学徒が原子爆弾によって世にも稀な非業の最期を遂げ、或いは全身傷痍の人となり終生其の苦に呻吟せなければならなくなつたことは何ん言う宿劫でありませうか。

その後星霜移り、歳華は流れ去り、世は平和を取り戻し当時の悲劇を語る人も尠くなりつゝ、あつた31年ある日、突然山口県田布施町の人、松本和子（現在村中和子）さんが広島市役所の紹介で私の家を訪問されました。

この人は光工廠で勤勞中焼夷弾で障害を受け、片足を切断された

気の毒な人です。

同じ境遇にある中前妙子（現在寺前妙子）さんに連絡して度々お会いすることになりました。

中前さんは爆心地に最も近い電話局で被爆され、奇跡的に生存されている人でした。

三人は親子姉妹の如く互に生きていく喜びを感謝し学徒に対する国家処遇につき話しあい、互いに立ち上がって国に補償を要求する決意を固め、一日浜井広島市長を訪問して事情を訴え尽力方をお願いした処、市長さんは、皆さんのご心中は十分察せられ、ご同情も

第61回原爆死没者追悼式のご案内

巡り来る8月6日が近付いて参りました。午前9時から動員学徒慰霊塔の前において、会として第61回目の原爆死没者追悼式を執り行います。お暑い時期ですが、お体にお気をつけくださいましてお参りください。

前日の8月5日には、慰霊塔周辺の掃除を済ませたあと(10時前後になると思います)、慰霊塔のすぐ近くにある西向寺様で仏式の供養を行っております。ご参加いただければ幸甚に存じます。



西向寺での供養会

するが市としては何んの代償も出せない、その内お喜びの日が来るでせう、それまでお待ちなさい、と力づけ慰めて下さいました。

続いて大原広島県知事さんにもお願いしたが同様の返事で朗報を首を長くして待ち続けたが一向にその気配がありませんでした。

或る時は町内会長さんにもお願いしたがそれも亦同情はあつてもよい方策はありませんでした。

しかたなく遺族会こそ唯一の頼みとして足を運んだ処意外にも、学徒は子供でせう、どうして軍人と同じ資格が得られますかと一笑された時の悲しさ、悔しさに張りつめた心が一時に尽き果て涙を払うことも出来なかつたこともありましたが。こうした仕打に逢えば逢う程

風雪に耐えて麗わし野辺の梅

目次

創立までのあゆみ	1～2
ごあいさつ	3
お世話になる方々	3
平成28年度事業実施報告	3～4
平成28年度収支決算書	4
理事長インタビュー記事	5
被爆体験証言者伝承文	6～7
行事予定	8
原爆追悼式・供養会の案内	8
あとがき	8

いかに嵐に吹かれても、いかに迫害があつても、素心を貫徹すべく信念に燃え、今日は市役所、明日は県庁にと足を運びました。

或る日県援護課のドアの前に立ち遠慮気分で入室することを躊躇していると、大石主事さんから声をかけられ助け舟を得た思いで中に入つて見ると課長さんがデット見ておられるので、私は何か悪いことでもしたのかと訝っている。と課長さんが温品さん貴女方の努力には引かれました。今後はお百度詣りをされなくても県庁が出来るだけお力になります。然し今すぐ明案がある訳ではないから毎日県庁に来られるのは職員にも迷惑になるから暫くご遠慮下さい。とのお言葉には一抹の不安とこれまでの非礼の数々に反省させられました。

爾来県からの吉報を一日千秋の
思いで待つこと久し

苦しみは生きるしるしと

知りながら

なほうらめしや力乏しく

この間世間の見る目は白い眼
で、心の空洞を如何にして満たす
か窃かに悩ました。

温かいご同情とご支援の結果、
県庁に私達の机と椅子が用意され
こゝにお掛けなさい、と言われた
時の嬉しさ思わず泣き伏し感激し
たものです。

一縷の望みに萌え広島市戸籍係
で戸籍の閲覧を乞い八月六日以後
の死亡者を年令と対照し書き取っ
ては名簿作り又学校のご協力を得
て入学式、卒業式父兄会のお集日
を機会に父兄との連絡にあたり、
時には呉市まで足を伸して市役所
や福祉事務所のご協力煩したこと
もありました。

障害者との連絡のためには趣意
書を電車やバスに乗り込み、そつ
と人知れぬように手渡して賛同を
求めたものの学徒でない人にお渡
して後味が悪く顔を赤らめたエピ
ソードもありました。

憂きことのなこの上に

積れかし

限りある身の力ためさん

これが私達の終始変らない心境
でありました。毎年八月六日には
学徒名簿作製の好期で、己斐の花

屋さんから車一台お花を仕入れお
線香と共に平和公園で参列者に原
価で売り趣意書を渡して署名して
貰ったが馴れないのとお恥しい気
持とで複雑な心境は隠しきれない
ものがありました。

昭和21年参議院議員山下義信先
生が戦災学徒の調査をされ援護の
道を開くためご苦勞下さいまし
た。寺前さんと二人で機会を得て
はよくお訪ねして陳情しお力を借
り、慰めを受けたり時には大きな
雷を落されて泣いたこともありま
した。

先生の強いお肝人りとご支援と
は県市のご指導と一体となって昭
和32年2月17日、本会の誕生の日
を迎えることになり、中国新聞と
NHKの放送とで遺族へのご案内
につき周知徹底を図りました。

当日は前日の雨も霽れ上り会場
は県庁の正庁で、政界、財界、学
校等各方面からの花輪に飾られ、
多数のご来賓のお祝詞と激励のお
言葉を受けてこの会が発足したも
ので思えば永い月日でした。

特に会の結成に容易ならぬご援
助下さった財団法人学徒援護会の
宮原周治さん、山口県から松本和
子さんがご臨席下さったことは忘
れ得ぬ印象でありました。

そして初代会長として重責を背
負ってたたれた寺前妙子さん、住
田道子さん、辰本キミヨさん、又

障害者の武内美代子さん、吉村幸
子さん等は献身的にご協力を下
さったお蔭で会の発足が促進出来
たもので共に苦勞をした想い出は
感慨深いものがあります。

征戦とは申すもの、政府が国家
命令として学徒をこゝまで狩り出
さなかつたらこんな悲劇はなかつ
たであろう、恐ろしいのは戦争で
あります。

将来は絶対に戦争を引き起こし
てはならないし、起した責任とし
て国家補償は完全に果たすべきも
のと信じます。

私達の最も深い印象は昭和32年
10月20日、山下義信先生のご提唱
により県・市合同の公葬とも言う
べき動員学徒慰霊祭を広島市商工
会議所のご協賛で、広島市西新町
光道会館で仏式によって、営んで
貰ったことであります。

当日は、戦後初の慰霊祭のこと
で誠に懇な読経の裡に、遺族一同
焼香させてもらい感激を新たにし
ました。

式後は弔旗をかざして平和公園
の慰霊碑に一同参拝してみ霊の冥
福を祈念しました。

又、当時の惨状を何かの形で永
久に記録に残したいと考えていた
処、『麦と兵隊』で有名な作家火
野葦平さんが、映画を製作しよう
と計画され、私達は大いに賛意を
表し、その準備を進め協賛を申し

出しましたが、火野先生が突然逝去
されたので、この計画が無為に
終わったことは残念至極でありませ
んでした。

この企てが予定通り完成してい
たら、尊い記録として感激を一層
新たにしたことでしょう。

その後、広く全国各学校その他
有縁の人々によって、予ねての念
願であった慰霊塔が昭和42年に完
成し、学徒の功績を偲び慰霊の誠
を捧げ得たことも感激の一ツで
す。

尚この運動には県外からも温か
い物心両面のご援助があったが、
特に記憶に深いのは島根、鳥取両
営林署の婦人青年部の皆さんから
多額の資金カンパと強い激励の
あったことである。

当時会員に高本悦子さんが個人
的に文通していた人との因縁で本
会のことを知って戴き「忘れられ
た、戦争犠牲者学徒を救ってあげ
よう」との呼びかけが終つての賜
り物で吾々の心を励まされたもの
である。

島根県では大田市の大崎雪枝さ
んが同志のため献身的にご活動下
さって吾々この共同戦線にご参加
下さったことも脳裡に深く残っ
ている。

島根県とは背中あわせの関係も
あるから将来もこの縁を続けたい
ものである。

広島市担当課長ごあいさつ



広島市健康福祉局保険年金課
福祉医療担当課長

南部 克徳

広島県動員学徒等犠牲者の会の皆様方におかれましては、日頃から本市行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、健康福祉局保険年金課福祉医療担当課長に就任し、援護行政に携わることとなりました。よろしくお願い申し上げます。

先の大戦において負傷され、あるいは最愛の御家族を亡くされた会員の皆様方におかれては、長い間、肉体的精神的苦痛に耐えてこられたものと拝察申し上げます。

戦後七〇年以上が経過し戦争の記憶が風化していく中、今日のわが国の平和と繁栄の礎には、数多くの動員学徒や女子挺身隊員の方々の尊い

犠牲があることを、私たちは決して忘れてはなりません。

本市は、平和首長会議を構成する七千を超える加盟都市とともに、国連や志を同じくするNGOなどと連携して、二〇二〇年までの核兵器廃絶をめざし、核兵器禁止条約の早期実現に全力で取り組んでまいります。

また、戦後の復興・成長を支えた市民の多くが高齢者となり、これから特に七五歳以上の後期高齢者の急速な増加が見込まれる中で、先人の努力によって築き上げられた本市の歴史に思いを致し、これまでの皆様の貢献に敬意を表しつつ、住み慣れた地域で安心して暮らしていただくるよう努力してまいります。

終わりに、貴会の益々の御発展と、皆様の御健勝・御多幸を祈念いたします。御挨拶とさせていただきます。



お世話になる方々

広島県

健康福祉局長 菊間 秀樹

社会援護課長 日下 仁彦

援護恩給グループ

主 幹 多田 明子

事業調整員 山口 博幸

事業調整員 岩井 明子

事業調整員 船石 幸恵

事業調整員 川尻 博満

援護恩給グループ

電話 082-513-3036

広島市

健康福祉局長 川添 泰宏

健康福祉局次長 高宮 裕介

健康福祉局

保険年金課長 沖村 慶司

健康福祉局保険年金課

福祉医療担当課長 南部 克徳

健康福祉局保険年金課課長補佐

(事) 管理係長 前田 博幸

健康福祉局保険年金課

主事 大下 直哉

電話 082-504-2159

健康福祉局原爆被害対策部調査課

主事(追悼補助金担当) 山本 勝彦

電話 082-504-2191

平成28年度 事業実施報告

1 広報活動の実施

(1) 原爆死没者追悼式の案内

会報「ともしび」の送付に合わせ追悼式の案内を送った。

(2) 会報「ともしび」の印刷・配布

平成28年6月30日付け第124号・平成28年11月30日付け第125号

広報部会により企画編集を行い、各1、200部印刷し、会員等に配布した。

(3) ホームページの運用

ア 被爆体験という語句で本会ホームページが検索エンジンに表示できるように内容を一部修正した。

イ 被爆体験証言ビデオを掲載した。

ウ 会報「ともしび」の掲載

124号・125号

エ アクセス数(29:31)

4226件

(4) 「慟哭の証言」を関係機関等に配布

慰霊塔に千羽鶴を奉納していただいた学校等へ冊子「慟哭の証言」を送付した。

(5) 慰霊塔説明文の設置

ア 慰霊塔の説明文を常時設置し、参拝者の理解の一助にした。(年間5万枚印刷)

イ	新たな慰霊塔説明文を印刷した。	(6) 動員学徒等の業績の顕彰とその精神の啓発	慰霊塔の清掃日等を利用して、随時、参拝者に対して原爆、空襲、動員学徒の顕彰等について説明した。	2 第60回原爆死没者追悼式の挙 日時 平成28年8月6日(土) 午前9時から	場所 動員学徒慰霊塔前広陽 実施内容 式典参加者 約270人 代表校 広陵高等学校	3 動員学徒慰霊塔の清掃・供花・ 英霊供養	月日 参加者数 (西向寺) 月日 参加者数 (西向寺)	3月6日 18人 3月24日 18人	2月6日 17人	1月13日 16人	12月6日 14人	11月7日 16人	10月6日 15人	8月5日 20人	7月6日 20人	6月6日 17人	5月6日 23人	4月6日 17人	合計21回延347人参加	4 役員会等の開催	開催日 内 容	28・4・25 監事会 平成27年度決算関係監査	28・5・6 理事会 議案第1号 平成27年度事業報告
イ	新たな慰霊塔説明文を印刷した。	(6) 動員学徒等の業績の顕彰とその精神の啓発	慰霊塔の清掃日等を利用して、随時、参拝者に対して原爆、空襲、動員学徒の顕彰等について説明した。	2 第60回原爆死没者追悼式の挙 日時 平成28年8月6日(土) 午前9時から	場所 動員学徒慰霊塔前広陽 実施内容 式典参加者 約270人 代表校 広陵高等学校	3 動員学徒慰霊塔の清掃・供花・ 英霊供養	月日 参加者数 (西向寺) 月日 参加者数 (西向寺)	3月6日 18人 3月24日 18人	2月6日 17人	1月13日 16人	12月6日 14人	11月7日 16人	10月6日 15人	8月5日 20人	7月6日 20人	6月6日 17人	5月6日 23人	4月6日 17人	合計21回延347人参加	4 役員会等の開催	開催日 内 容	28・4・25 監事会 平成27年度決算関係監査	28・5・6 理事会 議案第1号 平成27年度事業報告

平成28年度 収支決算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
1 経常利益・経常費用			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益			
追悼式典事業収益	402,000	529,000	△ 127,000
受取補助金等			0
地方公共団体補助金	554,000	561,000	△ 7,000
受取寄付金			0
受取寄付金	63,100	98,000	△ 34,900
雑収益			0
受取利息	139,942	50,663	89,279
雑収益	798,512	911,318	△ 112,806
経常収益計	1,957,554	2,149,981	△ 192,427
(2) 経常費用			
事業費			
会 議 費	2,816	6,961	△ 4,145
旅費交通費	269,800	268,800	1,000
通信運搬費	253,203	205,022	48,181
消 耗 品 費	245,252	223,492	21,760
修 繕 費	40,000	345,792	△ 305,792
印刷製本費	451,670	286,576	165,094
光熱水料費	28,288	29,404	△ 1,116
保 険 料	23,000	28,000	△ 5,000
委 託 費	368,000	378,000	△ 10,000
賃 借 料	0	5,832	△ 5,832
諸 謝 金	800,000	800,000	0
支払負担金	87,000	86,464	536
雑 費	306,499	275,702	30,797
事業費計	2,875,528	2,940,045	△ 64,517



清掃・供花を行っている会員



ホームページに被爆証言ビデオを掲載



清掃・供花を行っている会員



ホームページに被爆証言ビデオを掲載

毎日新聞 理事長インタビュー記事

広島 の 発言 2016

戦時中、建物疎開や工場で勤労奉仕に動員され、戦禍に倒れた学徒や女子挺身隊の遺族ら約1000人で構成される「県動員学徒等犠牲者の会」の理事長に就任して8年。被爆70年の昨年8月6日、中区の平和記念公園内にある慰霊塔前で執り行われた追悼式典で、参加した中学生たちに語りかけた。

「皆さんと同じ世代の子どもたちが戦争の手伝いをして犠牲になりました。その無念を推し量る時、あまりに若い犠牲者に哀惜の念に堪えません。皆さんの将来の活躍の場は、核兵器や戦争の無い平和な世界でなければなりません」

戦況の悪化で1945年4月、翠町(南区)の自宅に家族を残し、

一人だけ本田村(庄原市)に集団疎開した。8月6日、米軍が広島に原爆を投下し、家族6人全員が自宅などで被爆。中でも爆心約1キロの小網町(中区)で建物疎開作業に奉仕していた3歳年上の次兄・功さんは、顔の識別もつかないほどの大やけどを負い、1週間後、疎開先に父から「兄死」を伝えるハガキが届いた。

「男の子は人前で涙を流してはいけない」と、同級生が寝静まって布団の中で一人、歯を食いしばって泣きました。それでも、軍歌の歌詞をもじって『ここはお国を何百里ノ離れて遠き比婆郡のノ赤い夕日に照らされて』と口ずさんでいた当時の私は、軍国少年。大きくなったら兵隊に

「県動員学徒等犠牲者の会」理事長

井上 公夫さん(80)

犠牲になった若い命 忘れない

行くんだと信じてやまず、今にして思えば国家に洗脳されていたと恐ろしさを感じます」

その後、中学1年の時に父が病死、高校3年の時に長兄が甲狀腺がんを発病したため、高校を卒業するとすぐ就職して家計を支えた。定年退職後の99年、犠牲者の会の会員だった母の死をきっかけに同会に入会。08年に理事長に就任した。

課題は学徒たちの悲劇を語り継ぐ後継者の確保だ。若くして亡くなった学徒には子どもがおらず、終戦から70年以上経って学徒の父母らも次々と鬼籍に入った。理事長に就任して開設した同会のホームページでは、会員の体験文集、慟哭の証言を電子ブックとしてアップしたほか、学徒の



無念を世界へも発信しよう。英語教師だった会員らの力を借りて文集の英訳作業を進めている。

「戦争で悲惨な思いをしたのは、戦地の軍人だけではない。原爆ドームのすぐ横に学徒たちの慰霊塔がありながら、足を止め、誰がまつられているのか確かめたり、7000人もの学徒が被爆死した

【石川将来】

いのうえ・きみお 1935年9月生まれ。高校卒業後は金融機関に勤務。子どもの教育を支援するユニセフの理念に賛同し、慰霊塔に供えられた外国硬貨を県ユニセフ協会へ寄付している。

被爆体験証言者 寺前妙子さん 伝承文(4)

被爆体験伝承者…辻 靖司

(7) 次に寺前さんを助けながら一緒に避難された先生の消息について、お話をします。

寺前さんは原爆投下時に寺前さんを助けながら一緒に避難して下さった先生を探されました。やっと分かったのが、広島では原爆で亡くなられた方々の33回法要がある年だったそうです。先生は1945年(昭和20年)8月30日に呉市まで逃げて行かれ、そこで亡くなられたという事を教えてもらいました。先生は22歳の若さでした。あの日、私のような重症を負った生徒を次から次へと助け出して、1か月も生きる事が出来なく亡くなられた。寺前さんは「先生、本当に心から命をありがとうございました」とお礼が言いたかったのです。寺前さんも重傷を負われました。だけど、今は元気な姿で先生の事を思っ感謝しながら生きていますので、先生も見守って下さっていると思っておられるそうです。実は3年前(日24年)、思いもかけず、先生の甥の方が「寺前さん、おばさんの事をちょっと教えて下さい、聞かせて下さい」と言われて甥の方にお会いしました。そして、被爆した当日の事をお伝えしま

した。「お父さんは既に亡くなっているのに誰に聞く事も出来ないけど、寺前さんの事はよく父から聞いていました。そして父がずっと手放さないで、いつも持っていた物がこれですよ」と見せてもらったのは、中国新聞に載っていた「私の尊敬する人・わが身顧みず被爆時の恩師」というテーマの記事でした。寺前さんはその記事へ原爆の時に助けてもらった先生の事を書いておられました。それを父がずっと「これは妹のチヨコ先生だ、チヨコちゃんの事を寺前さんがこうやって書いてくれたわけじゃけ」と言っ、肌身離さず持っているという事を教えてもらいました。寺前さんは「本当に先生の事を忘れる事もなく、先生にいつも励まされて現在まで生きております。」と、寺前さんを助けながら一緒に避難された先生の甥の方とのすばらしい出会いについてお話しをしていただきました。伝承者の私も先生と生徒の師弟愛の絆を強く感ずる感動するお話でとても嬉しく感じる時間でした。これで被爆体験証言者の寺前さんからお聞きしたお話は終わりです。

6. 私が被爆体験証言の伝承研修活動で学んだ事、私の今後の平和継承活動の指針は次の3項目です。

一つは、私は寺前さんの被爆体験証言のお話をお聞きして、寺前さんの被爆の苦労やつらい思いやつらい体験を、被爆体験のない私が伝承者として出来るのだろうか?とても不安でした。しかし、放射線障害の4つのガンの闘病生活を乗り越えて、「動員学徒慰霊塔」の建設や被爆体験証言活動、フィールドワークとご高齢でありながら、頑張っておられる寺前さんの姿を見ると、私の頑張りは負けている!もともと頑張りようは負けないといけないうのだ!と思えました。このように、被爆体験証言者の寺前さんから大きな力をいただき、今後の伝承活動に取り組みたいと思っています。

二つ目の事は、寺前さんの証言活動で両親や妹さん弟さんへの愛情と深い絆、先生や先生の甥子さんとの絆など、深い絆で結ばれていたお話を聞きしました。このような「大きな心の絆」はどのようにして出来るのでしょうか? 一人一人の温かい「心遣い」「気配り」「人の痛みが解る努力」の取り組みによって、寺前さんが築かれた大きな絆と同じような絆は私達も築く事が出来る事を学びました。今後、私も「人との温かい心の絆」を大切にしたい人生を歩きたいと思っています。

三つ目の事は、寺前さんは女学校3年生の15才の時、電話交換業務に学徒動員された下中町(現在の袋町)の広島中央電話局で、廊下に整列していた時に被爆し、左目を失われる大怪我を負われました。私は爆心地から540mの至近距離で被爆し、奇跡的に生き残られた被爆体験証言者寺前さんの被爆場所の袋町の場所に行きました。(2013年7月12日と2014年9月30日にNTビル横の原爆慰霊碑にご一緒に参拝。)

この場所に立つて爆心地上空600mで炸裂した直径400mの大きな大球を想像した時、私にはその場所は爆心地直下の被爆場所でした。どんなに熱い熱線、すさまじい爆風、危険な放射線が放射されたのか、原爆は、たった一発だけで街を破壊しつくし、老若男女の区別なく多くの市民の命を無差別に奪ってしまった。とても恐ろしい兵器なのです。非人道的な原爆被害の実態をしつかりと伝承する責務を強く感じた時間でした。

7. 結び

今後の平和継承活動に向けて、私からお願いです。

・「被爆体験証言者の寺前さんからお聞きした事」を被爆体験のな

い私がお話しました。
15歳の若い女学生が一番大切な顔の大怪我をし、自らも四つのガンとの

核兵器の廃絶を目指して！



みなさんにできることは何でしょう？

闘病生活と闘いながら原爆被害の障害に苦しみ、とてもつらく苦しい日々を乗り越え、70年の長い人生を力強く生き抜いてこられたお話をしました。今から70年前の戦争をしてきた時代には、小学生は「学童疎開」と言って、お父さん、お母さんとも別れ別れになって遠く離れたお寺などで生活をしていました。そして、お父さん、お母さんが広島で被爆で亡くなられ原爆孤児になって、その後は一人で生活をする事になる児童も沢山おられます。戦争で殺し合いをすれば、子供から大人まで沢山の人が犠牲になり不幸になる事を理解していただけたと思います。今後、みなさん一人一人が「核兵器のない平和な世界の実現」をさ

せるために、どのように取り組んでいただくのか？ 色々と考えていたきたいと思っています。きょうの話を聞いて感じた事を、家族や友達と話をする事も「核兵器のない平和な世界の実現について」考える一歩になると思います。ぜひ、きょうから第一歩を踏み出していただきたいのです！

これで私のお話を終わります。長い間、静かに聴いていただきありがとうございました。

平和を伝える

津田 久美子

私は、被爆体験伝承者として、平和記念資料館で寺前妙子さんの被爆体験をお話しさせていただいております。

私の母は、寺前さんと同い年で15歳の時、学徒動員中に被爆しました。私は、被爆二世というわけです。母は、ほとんど、いや全くと言っていいほど被爆体験を語ることもなく、私も被爆二世であるということ意識せず生きてきました。ただ、母の姉二人が原爆で亡くなっているの、私が子供の頃から母と一緒に毎年8月6日になると原爆死没者慰霊碑にお参りし、夜になると灯ろう流しをしてきました。

それを続けていくうちに、もし、母が原爆で亡くなっていたら、私も今ここにはいない。私が今生あるのは、平和を伝えるためではなかろうか、そんな気持ちで私の心の中で起こってきたのです。

そして、それを後押ししてくれたのが、21歳と18歳という若さでなくなった母の姉二人の存在です。会ったことのない二人ですが、「広島で何が起ったか話してね」と言っているような気がするのです。

平和のために何かしたい、そう思っていた時に、被爆体験伝承者のお話を知り、これだと思いました。そして、寺前さんと出会い、研修を受け、伝承者として活動するようになりました。

寺前さんは、被爆して負傷し救護所に運ばれる途中、また運ばれた救護所で「お母さん」「お母ちゃん」といいながら死んでいった動員学徒の叫びを聞きました。その時の悲痛な声が今も深く耳に残っているとされます。そして、生き残った者の一人として、あの時の声を一人でも多くの人に伝えていかなければという思いを持ち、証言を続けていらつしやいます。

私もこのお話を聞いた時、状況が目に見え、学徒の方々の辛く、悲しく、情けない思いを伝えていかなければと思い、語らせていただいています。

今、広島は美しい街になりました。それは、原爆により多くの人が亡くなったことをみんなが忘れず、生き残った人達が平和な世の中を創ろうと努力を続けてきたからだと思います。

私も、微力ではありますが、被爆体験を伝えていくことにより、平和の種をまいていきたいと思っています。

(津田さんは、慰霊塔付近の清掃、8・6追悼式のお手伝いなど本会の活動にも積極的に参加しておられます。)



平成29年度 行事予定表

一般財団法人 広島県動員学徒等犠牲者の会

年	月	日	曜	清掃後読経	月	日	曜	清掃（行事がないときは解散）
平成29年	4	6	木		4	24	月	監事会（県社会福祉会館）
	5	8	月	理事会（西向寺） （平成28年度収支決算の承認）	5	24	水	定時評議員会（西向寺） （平成28年度収支決算の承認）
	6	6	火		6	20	火	
	7	6	木	8月6日追悼式打ち合わせ会（役割分担等） 会報「ともしび」封筒入れ（西向寺）	7	20	木	
	8	5	土	供養会	8	21	月	
		6	日	第61回原爆死没者追悼式				
	9	6	水	追悼式反省会（西向寺本堂）	9	20	水	
	10	6	金		10	20	金	
	11	6	月		/	/	/	
平成30年	12	6	水	会報「ともしび」封筒入れ（西向寺）	12	20	水	研修会（西向寺）
	1	9	火		/	/	/	
	2	6	火		/	/	/	
	3	6	火		3	23	金	理事会・臨時評議員会（西向寺） （平成30年度収支予算承認、役員の選考）

（注）
1 慰霊塔付近の清掃は、午前9時30分からです。雨天の場合も実施します。
2 左欄は、慰霊塔付近の清掃後「西向寺」で読経。
右欄は、行事がないときは清掃後解散。
※5月2日（火）は、有志で花と水を取り替えます。
なお、「西向寺」様の都合によって、日程変更する場合があります。

ここ数年は、往年の銀幕の大スターの方々の訃報が相次いでいます
が、今年5月3日には、広島市大手町出身の月丘夢路さんが94歳で亡くなりました。

彼女は、爆心地近くの薬局で生まれましたが、広島への原爆投下時は県立広島高等学校（現広島皆実高校）に在籍しながら東京で女優として活動中であつたため、なんとか難を逃れることができたようです。

1953年公開の映画「ひろしま」は、大やけどを負い、服はぼろぼろ、髪もちりちりの人々が、原野をさまよう。女学校の教師は傷ついた生徒たちの肩を抱えて川に逃れ、力尽きる」といった、今な

あ
と
が
き

ご寄付いただく際には、左記の口座へお振り込みください。

郵便局
振替口座
0130001618858
一般財団法人
広島県動員学徒等犠牲者の会

鳥羽孝明様

ご寄付お礼

平成28年11月から平成29年5月までに、次の方から貴重なご寄付をいただきました。ご厚志、誠にありがとうございました。

お胸をえぐる映画ですが、この映画に、月丘さんは「何かの力になりたい。」と、泥と炭を混ぜて顔に塗って教師役として熱出演しています。

また、当時松竹のスターでありながらギャラなしで、しかも、所属会社以外の作品には出られないルールであつたのを、会社の上層部へ直談判までしての出演でした。

私が購読している新聞社に、3年前に寄せられた手記には、「いつまでも戦争を嫌がる心を、私も含めて皆さんも持ち続けてほしいことを、切に願いました。」と記されています。

被爆72年、あらためて胸に刻みたい尊い遺言です。
（中国新聞2017・5・9「天風録」参照）

カープが勝つと、バラ色！負けると、むなしい！くやしい！かなしい！夜のスポーツニュースも、翌日の朝刊も、全く見る気がしない・・・ですよね。皆さんと同じように、カープの勝敗に悲喜こもごもの毎日ですが、ともあれ、今年は日本シリーズまで進出して、昨年の借りを返してくれることを、ただただ祈るばかりです。

4月のヒーローインタビューでの新井の名言「なんでもいいんです。勝てば！」ほんと、カープファンの気持ちを代弁してくれていました。（本地）